

# さわがせ

号数 第 3 4 6 号  
発行日 令和 6 年 12 月 1 日  
発行所 金光教 韮教会  
〒 550-0011  
大阪市西区阿波座 2-2-10  
TEL&FAX 06(6541) 6313  
mail: utubo1905@gmail.com



韮布教 120 年 生神金光大神大祭が仕えられました (11月 17 日)

## 韮布教 120 年記念祭 麗しく奉行

### ご祭典のご報告

去る 11 月 17 日、快晴のお日和を賜り、韮布教 120 年・生神金光大神大祭に、連合会の先生方並びに、関係教会の信奉者、在籍信奉者の皆様方が、お繰り合わせをいただかれご参拝になりました。



午前 10 時半より、韮教会の歴史を短く纏められたビデオ「永遠の祈り」の上映されました。続いて典樂が奏でられる中、7 名の祭員が参向され、祭典が始まりました。教会長がご祭主を仕えられ、120 年の御礼と願いの祭詞を奏上し、玉串が奉奠されました。続いて講師御夫妻、参拝教師の先生方により玉串、参拝者代表が玉串を奉奠されました。祭典は厳かに、克つ麗しく仕えられました。

祭典後は、大阪教会副教会長・白神紀美雄先生から、「廣大無辺・自由自在」

との講題にて、同先生が伝え聞かれている  
鞠教会歴代教会長のお話に始まり、大阪教会御遷座への願いについての、力みなぎるお話を頂きました。大阪教会は今年10月27日無事新築、遷座祭が仕えられたのでした。また、その後、11月10日及び24日の2回に分けて生神金光大神大祭並びに広前新築落成奉告祭が



ご神前のお供え物

新しいお広前で麗しくお仕えになられたのですが、そのお忙しい最中に、当鞠教会の記念祭においていただき、お話をしてくださったのは真にありがたい限りでした。

その後、鞠布教120年記念歌～「永遠の祈り」を皆で合唱して、120年記念祭は無事に終わりました。

記念祭後は、直会宴が教会の2階で催されました。

直会宴の司会は栗山教雄さんが担当され、お礼の言葉を松居真幸さんが述べられました。そして、難波教会長・近藤清志先生のご発声にて乾杯、会食となりました。途中にはくじ引きもあり、最後に渡辺秀孝さんの発声で万歳三唱され終宴となりました。

### 初代鞠教会長・和田安兵衛先生の専心布教

和田安兵衛先生は、明治17年12月に神道管長から教師試補を拝命しましたが、金光様は「上から下に水を流すのはみやすいが、下から上に流すのはむずか



鞠布教 120 年記念祭の参拝者



玉串奉奠される先生方

しい」ということで、すぐには布教のお許しはいただけず、大阪教会でのご用に勤めました。

教祖様は明治16年10月10日、神上りになられました。その3日前の夜、寝ている安兵衛先生の枕元に、教祖様が御神前にお勤めのままのお姿でありありとお現れになり、「国を替える、このことを白神に伝えてくれ」、と仰せられました。

た。起きて、急いで二代白神先生にお伝えに行かれましたが、二代白神先生は御祈念をされ、「生神様だからそういうことはあるものか」と仰せになり、すぐには金光様の元に行かれず、葬儀には間に合いませんでした。このことから、安兵衛先生は、「神様からのお知らせは待ったなしじゃ」と度々おっしゃっていました。

その後明治37年7月、金光教の大本社に参拝させていただいたとき、三代金光様から布教のお許しをいただき、その喜びの心を失わない内にと、自宅に戻らず、即刻韮下通2丁目の長屋の一軒を借り受け、専心布教を始められたのです。その取り組み方の素早いことは驚くばかりです。

このように、神様のお知らせは、御祈念中のもとより、夢にでも、人の話からでも、ふと感じさせていただくことがあるのです。それも、日々常々に真の信心をして心を磨いていればこそ、一人ひとりの心に頂いている神の分け御霊により気づかせていただき、おかげにして下さるのです。



ご教話くださる、  
大阪教会副会長  
白神紀美雄先生

### 和田安兵衛先生の信心姿勢

また、和田安兵衛先生はご神徳を頂かれた方で、信奉者の願い事を神様にお届けになり、御祈念中に神様のお知らせをいただかれたり、あるいは「手みくじ」といって物事の善し悪しを教えていただかれたりしており、参拝者はその結果を求めて参ってこられたのです。

その当時次々と修行生が来られ、そのお知らせの頂き方を求められました。先生は「わしのような者に訪ねんと、自分で神様からお知らせをいただけ」といって御祈念の仕方を教えられたということです。お結界にお



献饌行事にて、口ウソクを手次ぐ 鍵山結生君

届けずればもう安心だと思い、自分で神様に向かうことを疎かにしないようにと教えられたのでしよう。

御祈念は、当時は大祓詞を何回も何回も唱えては神様に向かうことを教えられ、声が小さいと棒を持ってきて、「もっと大きい声で！」と言って活を入れられるのです。その頃参拝しておられた方は、「いつになったら御祈念が終わるのかと思った」と伝えておられます。それほどに心の迷いを振り払って一心の御祈念を教えられたのです。

### お土産に何をしようかな

このたびの記念祭の準備の中で、親先生は、参拝して下さった皆様に、何かお土産をお持ち帰り頂きたいと考え、悩んでおりました。

というのも、親先生は堺の生まれで、今までよく堺名物の刃物を記念品にしていましたが、最近、いつも買っていたお店の主人が亡くなり店仕舞いされ、困っていたからです。何にしようか？できれば安兵衛先生に由縁のある物とを考えていたとき、ある方から野菜などに付けて食べる「付け味噌」を頂き、味わってみるととても甘く美味しいものでしたので、どこで売っているのかを調べると、大阪住吉区の住吉大社の東にある、室町時代から続く老舗だと分かりました。これだ！と思った親先生は、住所をメモして自転車で探しました。車だと足は楽ですが、住吉という所は、戦争で焼け残った古い家が多く、道幅も狭く、店を探すのに自転車が便利だと思ったのでした。親先生も神様のお知らせと感じたら待ったなしです。大社の東だと見当をつけてその近くまで行き、「神様お店がすぐ見つかりますように」と心中祈念をしながら近辺をうろうろしていたところ、郵便配達の人とばったり出会いました。「そうだこの人に尋ねよう」とふと思い、持参したメモを見せて尋ねたところ、「今通り過ぎた角に味噌屋が



乾杯のご発声  
難波教会長 近藤清志先生



2階集会室にて直会宴

あつて！！」と教えて下さり難無くたどり着いたということです。その時、親先生は、この郵便配達員の方は神様からのお指し向けだ！！と有り難く感じ、心からお礼申したのです。

「我が心が神に向かうを信心というのじゃ」と教えられていますが、「かなわぬ時の神頼み」ではなく、いつも神様に心を通わせながら物事に取り組むことが大切だと改めて思われ、また、和田安兵衛先生の日々の取り組みと、一心のご祈念、そして「待ったなし」の教えも思い返されたのです。

### 永遠の祈り

このたびの記念祭では、典楽の御用を、親先生の娘さん達とその家族がされ、若先生の長男がビデオと記念歌「永遠の祈り」を作詞作曲されました。

また、祭典の当日は、ご信者さんが、それぞれに御用のおかげを蒙られ、ご信者さんのお子さん、お孫さんも御用をされました。このことを親先生は大変喜ばれておられました。これからも私たち信奉者一同、信心を進め、永遠に続くおかげを蒙っていただきたいと願いを強く持たれました。



信徒総代 渡辺秀孝さんによる 万歳三唱

## さわかせ賛助会員募集

韃教会機関紙「さわかせ」は、皆様のお祈りとお力添えによりまして、令和6年度は7回の発刊が出来、教会内外のお役に立たせていただいて参りました。皆様からご意見やご感想をお寄せいただき、より立派で楽しい機関紙にお育ていただけますよう宜しくお願いいたします。

さて、今年に引き続き、来年度の賛助会員を募集いたします。今後とも教会機関紙永続発展のため、皆様の絶大なるご協力をお願い申し上げます。

なお、一〇千円で、二〇以上ご協力下さい。

申込はなるべく、12月末日までお願いいたします。

郵便振替口座番号 00950-3-61515  
口座名義 金光教韃教会

令和6年12月

7日(土) 月例祭執行

午前10時30分

祭典後教話、「信心のお手本」小橋教会長 生駒光一先生

15日(日) うりわり墓参 午前7時

20日(金) 信徒共励会 午前10時

22日(日) 月例霊祭並びに越年祭執行

人形行事

午前10時30分

令和7年1月

1日(祝) 元旦祭執行 午前10時30分

5日(日) うりわり墓参 午前7時

11日(土) 御本部年賀参拝 新幹線にて

12日(日) 初月例祭執行 午前10時30分

祭典後、信徒会総会・新年会



月例霊祭日に、祥月命日の御霊様もお呼び  
出ししてご慰霊させていただきます。  
ご都合お繰り合わせをいただかれ、ご参拝  
下さい。  
(12月22日午前10時30分より)

さわかせは、韃教会ホームページからもお読みいただけます。



金光教うつぼ教会

検索

<https://utubo.konko.info/>